

リハビリテーション科専門研修プログラム

診療科の特色

リハビリテーションは、医師、看護師、療法士（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士）、その他関連職種を含む多職種がチームで一人一人の患者に関わってその生活機能を高め、また、生活環境、地域社会に働きかけて、全人的な生活の質を高めるために遂行されます。この中でリハビリテーション科医は、障害に対する専門的治療技能と幅広い医学的知識、経験を持ち、他の専門領域と適切に連携するチームリーダーとしてリハビリテーションを主導する役割を持ちます。リハビリテーション科の診療では各専門診療科からのリハビリテーション依頼に対して評価を行い、目標設定・治療計画を立案してリハビリテーション処方を行います。そしてリハビリテーションが開始されると、専門診療科主治医、リハビリテーション専門職（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士）や看護師等と連携して、患者さんの治療・支援を行います。リハビリテーション科医師は定期的にリハビリテーションの効果判定を行い、患者さんに関わる多職種の医療スタッフ（チーム）の中心として、患者さんの在宅復帰、社会復帰を進めます。



リハビリテーション棟入口

専門研修の魅力

長野県におけるリハビリテーション医療の実際を見ると、リハビリテーション科専門医は40名（全国では2279名）、うち指導医24名で、専従の指導医が常勤でリハビリテーション科が独立している施設はわずか13施設に過ぎず、長野県全体のリハビリテーション医療の需要に対応することは困難な状況です。2018年4月からの新専門医制度ではリハビリテーション科は基本19領域に含まれており、制度施行にあたり臨床、教育、研究において長野県をリードしている信州大学医学部附属病院が基幹施設となり、県内の指導医常駐施設の多くが連携施設として協力し合って将来を担うリハビリテーション科専門医育成を目的として専門研修プログラム『長野県リハビリテーション科専門医研修プログラム』を立ち上げました。幅広い専門領域、急性期、回復期、維持期を専門とする10の施設群で成り立つ本研修プログラムでは、臨床的、学術的研修が十分に行えるだけでなく、県内全域にわたり専門診療科を超えた人間関係の構築にも寄与するものと思います。将来リハビリテーション科専門医となって信州大学あるいは県内の病院で勤務することを考えている医師には信州大学を中心とした本専門研修プログラムを選択していただくことが最良と思われると思います。

研修カリキュラム

(1) 研修期間

リハビリテーション科専門医は初期臨床研修の2年間と専門研修（後期研修）の3年間の合計5年間の研修で育成されます。すなわち専門研修期間3年で必要症例数等の条件を満たすと、リハビリテーション科専門医試験の受験資格が得られます。

(2) プログラム構成病院の概要（研修中に派遣される病院の指導体制など）

『長野県リハビリテーション科専門医研修プログラム』は長野県唯一のリハビリテーション科専門医研修プログラムであり専従の常勤指導医、臨床認定医が在籍する以下の施設群で構成されています。

< 専門研修基幹施設 >

信州大学医学部附属病院リハビリテーション科

< 専門研修連携施設・関連施設 >

- ・JA長野厚生連 佐久総合病院リハビリテーション科
- ・JA長野厚生連 佐久医療センターリハビリテーション科

- ・長野医療生活協同組合 長野中央病院リハビリテーション科
- ・鹿教湯三才山リハビリテーションセンター鹿教湯病院リハビリテーション科
- ・鹿教湯三才山リハビリテーションセンター三才山病院リハビリテーション科
- ・長野県立総合リハビリテーションセンター
- ・健和会病院リハビリテーション科
- ・信濃医療福祉センター
- ・長野県立こども病院リハビリテーション科

(3) 研修予定

専門研修プログラムの修了判定には以下の8領域について経験症例数が必要です。日本リハビリテーション医学会専門医制度が定める研修カリキュラムに示されている研修目標および経験すべき症例数を以下に示します。

- 1) 脳血管障害・外傷性脳損傷など: 15例
- 2) 外傷性脊髄損傷: 3例
- 3) 運動器疾患・外傷: 22例
- 4) 小児疾患: 5例
- 5) 神経筋疾患: 10例
- 6) 切断: 3例
- 7) 内部障害: 10例
- 8) その他(廃用症候群、がん、疼痛性疾患など): 7例

以上の75例を含む100例以上を経験する必要があります。



心リハ室

信州大学医学部附属病院リハビリテーション科では上記8領域全ての主に急性期症例を研修できます。専門研修修了に必要な回復期、地域連携等は専門研修連携施設、関連施設へのローテーションで研修を行います。

各年毎のおよその研修目標は下記の通りです。

<専門研修1年目>

指導医の助言・指導の下に、基本的診療能力を身につけるとともに、リハビリテーション科の基本的知識と技能の概略を理解し、一部を実践できることが求められます。

<専門研修2年目>

基本的診療能力の向上に加えて、診療スタッフへの指導にも参画します。リハビリテーション科基本的知識(障害受容、社会制度など)・技能(高次脳機能検査、装具処方、ブロック療法、急変対応など)を幅広い経験として増やすことを目標とします。

<専門研修3年目>

カンファレンスなどでの意見の集約・治療方針の決定など、チーム医療においてリーダーシップを発揮し患者さんから信頼される医療を実践できる姿勢・態度を習得してください。またリハビリテーション分野の中で8領域の全ての疾患を経験できているかを意識して、実践的知識・技能を習得します。

本研修プログラムを選択した場合、基幹施設である信州大学医学部附属病院での6か月以上の研修は必須ですが、それ以外については信州大学医学部附属病院を含む各研修施設の選択が相談により可能です。一施設で長期間の研修を希望する場合や、短期で多くの施設を研修するなど、様々な研修計画を組むことが可能です。

プログラムローテート例(短期で多くの施設を研修する場合)

1年目	2年目		3年目	
	前半	後半	前半	後半
信州大学医学部附属病院	三才山病院	鹿教湯病院	長野県総合リハビリテーションセンター	信濃医療福祉センター
佐久総合病院	佐久医療センター	信州大学医学部附属病院	長野県立こども病院	三才山病院
長野中央病院	健和会病院	長野県立こども病院	信州大学医学部附属病院	長野県総合リハビリテーションセンター

※上記は一例であり、必要経験症例を習得できる研修計画を随時検討可能です。

信州大学医学部附属病院における研修週間計画

	月	火	水	木	金	土	日
8:30-9:00リハ科カンファレンス							
9:00-10:00リハ患者診察							
10:00-12:00リハ患者診療							
13:00-17:00回診・リハ患者診察							
10:00-12:00義肢・装具外来							
14:00-16:00心リハ外来							
13:30-14:00呼吸サポートチーム回診							
16:00-17:00整形外科回診							
15:00-16:00嚥下造影							
15:00-16:00神経伝導速度、筋電図							
17:00-17:30循環器カンファレンス							
17:30-18:00救急カンファレンス							
19:00-21:00関連施設合同カンファレンス(3~4か月に1回)							

※その他、各領域のカンファレンスあり。

<研修プログラムに関連した全体行事の年間スケジュール>

月	全体行事予定
4	<ul style="list-style-type: none"> SR1: 研修開始。研修医および指導医に提出用資料の配布(信州大学医学部附属病院リハビリテーション科ホームページ) SR3 修了者: 専門医認定一次審査書類を日本専門医機構リハビリテーション科研修委員会へ提出 長野県リハビリテーション科専門研修プログラム参加病院による勉強会(症例検討・予演会3~4か月に1回)
6	<ul style="list-style-type: none"> 日本リハビリテーション医学会学術集会参加(発表)
7	<ul style="list-style-type: none"> 長野県リハビリテーション科専門研修プログラム参加病院による勉強会(症例検討・予演会3~4か月に1回) SR3修了者: 専門医認定二次審査(筆記試験、面接試験)
9	<ul style="list-style-type: none"> 日本リハビリテーション医学会中部・東海地方会参加(発表)
10	<ul style="list-style-type: none"> SR1、SR2、SR3: 指導医による形成的評価とフィードバック(半年ごと) 次年度専攻医募集開始(信州大学医学部附属病院ホームページ)

11	<ul style="list-style-type: none"> 日本リハビリテーション医学会秋季学術集会参加 SR1、SR2: 次年度研修希望施設アンケートの提出(研修プログラム管理委員会宛) 次年度専攻医内定 長野県リハビリテーション科専門研修プログラム参加病院による勉強会(症例検討・予演会3~4か月に1回)
12	<ul style="list-style-type: none"> 日本リハビリテーション医学会学術集会演題公募(12~1月)
2	<ul style="list-style-type: none"> 長野県リハビリテーション科専門研修プログラム参加病院による勉強会(症例検討・予演会3~4か月に1回)
3	<ul style="list-style-type: none"> その年度の研修終了 SR1、SR2、SR3: 研修目標達成度評価報告用紙と経験症例数報告用紙の作成(年次報告)(書類は翌月に提出) SR1、SR2、SR3: 研修プログラム評価報告用紙の作成(書類は翌月に提出) 指導医・指導責任者: 指導実績報告用紙の作成(書類はSR1、SR2 分は翌月に提出、SR3分は当月中に提出) 研修プログラム管理委員会開催(SR3研修終了の判定)

※SR1:1年目, SR2:2年目, SR3:3年目

(4) 専攻医受け入れ数、採用について

毎年2名を予定しています。

毎年7月から病院ホームページでの広報や研修説明会等を行い、リハビリテーション科専攻医を募集します。応募者は10月末までに書類一式を提出してください(詳細については信州大学医学部附属病院卒後臨床研修センターウェブサイト(<http://www.hp.md.shinshu-u.ac.jp/sotsugorinsho/>)あるいは信州大学医学部附属病院リハビリテーション科/リハビリテーション部ホームページ(<http://www.shinshu-u-reha.jp/>)を参照)。予定では11月中に書類選考および面接を行い、採否については12月に決定して本人に文書で通知します。

サブスペシャリティー・学位取得の道筋

リハビリテーション科専門医を取得した医師は、リハビリテーション科専攻医としての研修期間以後にサブスペシャリティー領域の専門医のいずれかを取得できる可能性があります。リハビリテーション領域においてサブスペシャリティー領域である小児神経専門医、感染症専門医など(他は未確定)との連続性をもたせるため、経験症例等の取扱いは検討中とのことです。その他については現状では不確定です。学位については研修期間中に社会人大学院や臨床医学研究系大学院に在籍して、リハビリテーション科医師としての実務研修を行いながら研究を行うことで最短で学位取得の可能性があります。

大学院での研究テーマ、臨床研究のテーマなど

臨床業務のない大学院の期間に関しては研修期間として取り扱うことはできませんが、社会人大学院や臨床医学研究系大学院に在籍し、臨床に従事しながら研究を行う期間については、そのまま研修期間に含めることができます。テーマについては信州大学医学部附属病院において特に力を入れている骨関節疾患、内部障害、がんのリハビリテーション等より決定します。

国内留学・海外留学

専門研修期間中(3年間)は内地留学的に一定期間研修を行うことは、特別な場合を除いて認められません。特別な場合とは、特定の研修分野を受け持つ連携施設の指導医が何らかの理由により指導を行えない場合、臨床研究を専門研修と併せて行うために必要な施設が研修施設群にない場合、あるいは、統括プログラム責任者(信州大学医学部附属病院リハビリテーション科長)が特別に認める場合となっています。

また、海外留学に関しては研修期間として取り扱うことはできないため、原則的には専門医取得後に目標や希望に応じて考慮されます。

将来の就職先など

信州大学医学部附属病院リハビリテーション科を中心として、主に県内の急性期、回復期病院にリハビリテーション科医師として勤務できる可能性があります。『長野県リハビリテーション科専門研修プログラム』に参加している専門指導医が常勤している施設以外にもリハビリテーション科専門医を求める施設は多数あるものと思われます。県内には専従の指導医が常勤でリハビリテーション科が独立している施設は少ない状況ですが、リハビリテーション科に専従する専門医が増えることで、新規にリハビリテーション科医師を採用する病院は増えると思われます。



理学療法室全景



リハビリテーション科スタッフ

連絡先

信州大学医学部附属病院 リハビリテーション科

■住所: 〒390-8621 長野県松本市旭3-1-1 ■電話: 0263-37-2836 ■FAX: 0263-37-2835

■E-mail: rihaka@shinshu-u.ac.jp

■U R L: <http://www.shinshu-u-reha.jp/>

■専門研修プログラムの詳細は、信州大学医学部附属病院HP 卒後臨床研修センター → 専門研修 [リハビリテーション科]